

2022年10月25日発行

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 118 「VUCAの時代と働き方の変化」 向江 亮 (東京電力ホールディングス株式会社)

1) 学会からのお知らせ (<https://kenkoshimi.jp/>)

■日本健康心理学会第35回大会の開催について (第35回大会事務局より)

会期: 2022年11月19日(土)・11月20日(日)

会場: 東北学院大学土樋キャンパス ホーイ記念館 (〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1)

大会テーマ: 「あたりまえ」を問い直す—well-being 再考—

準備委員長: 堀毛 裕子 (東北学院大学)

【大会 Web ページ】

ホームページ <https://conference.wdc-jp.com/jahp/35th/>

プログラム <https://conference.wdc-jp.com/jahp/35th/program.html>

【Important dates】

通常(当日)参加受付開始 11月8日(火)

オンデマンド配信期間 12月3日(土)～2023年1月9日(月・祝)

「仙台へのいざない」シリーズ第3号は下記URLからご覧ください。
https://conference.wdc-jp.com/jahp/35th/common/doc/JAHP35_news03.pdf

■ヤングヘルスサイコロジストの会企画シンポジウムの開催について (第35回大会事務局より)

ヤングヘルスサイコロジストの会では、日本健康心理学会第35回大会時に下記のようにシンポジウムを企画しております。

大会の一番最後になりますが、多くの会員の皆様にご参加いただき、今後の研究に向けて、貴重なご示唆を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

日時: 2022年11月20日(日) 16:00～17:30

場所: 第2会場ホーイ記念館 H302 教室

テーマ: 健康心理学における基礎と応用

企画者: ヤングヘルスサイコロジストの会

司会者: 小國 龍治 (立命館大学)

話題提供者: 森石 千尋 (早稲田大学大学院)

話題提供者: 柴山 笑凜 (桜美林大学大学院)

話題提供者: 高橋 健人 (東北大学大学院)

話題提供者: 毛利 知吟 (神奈川大学大学院)

指定討論者: 関谷 祐史 (「祐」は正しくは示右) (関西学院大学大学院)

■「実践! 健康心理学: シナリオで学ぶ健康増進と疾病予防」の刊行のお知らせ (「実践! 健康心理学」編集委員会より)

健康心理学の実践に向けた新刊本が、年次大会に合わせて刊行されます。

大会では記念シンポジウムが開催されます。本学会員が執筆にあつ

ており、大会特別価格で割引販売の予定です。

会場でお手にとりご覧ください。

「実践! 健康心理学: シナリオで学ぶ健康増進と疾病予防」日本健康心理学会編・北大路書房・定価2500円

■第129・130回研修会のご案内 (研修委員会より)

第35回大会時には、129・130回研修会を開催いたします。

現地でご参加、もしくは後日配信されるオンデマンドをご視聴、またはその両方の申込が可能です。

(注) 以前研修会でご案内しました、オンデマンド期間に誤りがございました。失礼いたしました。

・第129回現地開催日時: 11月19日(土) 15:30～17:00

・第130回現地開催日時: 11月20日(日) 8:45～10:15

・オンデマンド配信期間: 12月3日(土)～1月9日(月)

第129回は「新しい日常」における地域高齢者の健康づくり (講師: 一般財団法人日本心理研修センター 渡辺 紀子先生)、

第130回は「ポジティブな地域づくり —なぜ、ポジティブ心理学は公衆衛生を重視するのか—」 (講師: 関西福祉科学大学心理科学部 島井 哲志先生) です。

申し込みは、10月11日(火)より <https://kenkoshimi.jp/kensyu/kensyu2.html> で受付しております。

一般の方の参加も可能ですので、お知り合いの方へもぜひお声掛けください。

多数のご参加をお待ちしております。

■専門健康心理士と健康心理士の資格認定のための試験のお知らせ (資格認定委員会より)

2022年度の資格試験を11月26日(土)に実施します。

願書受付期間は、2022年10月24日(月)～11月4日(金) (必着) となります。

詳しい内容はHPでご確認のうえ、不明な点は一般社団法人日本健康心理学会認定・研修事務局<jahp@pac.ne.jp>にお問い合わせください。

■ヨーロッパ健康心理学会 Practical Health Psychology blog (PHPB, 実践健康心理学ブログ) の10月記事のお知らせ (国際委員会より)

“Lost (and found) in translation: Effective communication with patients” の日本語記事「研究を実践に移すときに失われる (あるいは見つかる) こと: 患者との効果的なコミュニケーション」が掲載されています。下記URLよりご覧ください。

(<https://practicalhealthpsychology.com/ja/2022/08/2526/>)

※ブラウザによっては開けない場合があります。その際にはお手数ですが、別のブラウザにてお試しください。

2) 健康心理学コラム Vol. 118

「VUCAの時代と働き方の変化」

向江 亮 (東京電力ホールディングス株式会社)

「仕事(ワーク)」と「生活(ライフ)」は、相互に影響すると考えられています。一方の役割での状況や経験が、他方の役割での状況や経験に影響を及ぼすことを「スピルオーバー」といいます(島津, 2022)。例えば、向江・木方・川原(2021)は、縦断データの分析を行い、日常的な食事行動(食事のバランスに気をつける、健康を意識した食事をする等)が将来のワーク・エンゲイジメントを予測し、反対に、ワーク・エンゲイジメントも将来の日常的な食事行動を予測することを示しています。

相互に関連するワークとライフですが、働き方改革や新型コロナウイルス感染症の流行を経て、働き方の多様化が進んでいます。多様化の進展は好ましい面も多い一方で、ワークとライフの関わりはより複雑になる可能性があります。あるいは、ワークとライフの区別自体がナンセンスになるのかもしれませんが。そうした変化に合わせて、働くことに対する価値観や意識も変化していくと考えられます。

VUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity) といわれる現代社会では、今後も働き方や暮らし方の変化が予想されます。私たちには、変化を柔軟かつ前向きに受け入れながら、健康で自分らしい働き方や暮らし方をどのように実現していくかについて考え、実践していくための研究や支援が求められているのではないのでしょうか。

引用文献

向江 亮・木方 真理子・川原 慶喜 (2021). 働く人々の日常的な食事・運動行動とワーク・エンゲイジメントの関連: ライフスタイル調査を用いた二次分析による検討. 産業・組織心理学研究, 35(2), 275-290.

島津 明人 (2022). 新版ワーク・エンゲイジメント: ポジティブ・メンタルヘルスで活力ある毎日を 労働調査会

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 < jahp@pac.ne.jp >

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 < jahp@pac.ne.jp >

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<https://kenkoshinri.jp/health/health1.html#mailmaglist>